

彙報 (昭和54年1月～同12月)

●人事異動

四月十七日 伊東史朗 学芸課に就任
八月一日 宮島新一 文化庁に出向

●特別展覧会 (○印は共催)

○特別展覧会・救世熱海美術館名宝展

会期 一月十三日(土)～二月四日(日)

会場 京都国立博物館・本館

主催 京都国立博物館・救世熱海美術館・日本経済新聞社

*約二〇〇〇点のコレクションの中から国宝・重要文化財四六点を含む
一六七点を公開。

○特別展覧会・障壁面の宝庫 京・近江の名作

会期 四月一日(日)～五月十三日(日)

会場 京都国立博物館・新館

主催 京都国立博物館・京都新聞社

*平安時代から江戸時代にかけての重要な襖絵・屏風絵を一堂のもとに
集めて陳列した。

○特別展覧会・パリ■ギメ博物館東洋美術の秘宝

会期 十月九日(火)～十一月二十五日(日)

会場 京都国立博物館・本館

主催 京都国立博物館・ギメ博物館

*パキスタン・アフガニスタン・インド・ネパール・チベット・カンボ
ジア・ジャワ・ヴェトナム・中国・韓国などの広域にわたる総数72点
の作品に、昭和三十二年ギメ博物館と東京国立博物館との文化財交換
によって日本に贈られた名品十四点を加えて公開。

●特別陳列 (▼は年間の恒例的な陳列)

▼十二天画像 一月四日(木)～一月二十八日(日) 新館2階11号室 中野玄三
担当

▼高台寺蒔絵 一月四日(木)～二月十二日(日) 新館2階15号室 灰野昭郎担
当

京洛仏像の新資料(1)——洛南・洛西—— 一月四日(木)～三月二十五日(日)
新館5～7号室 井上正担当

*洛南・洛西の調査によって知られた新資料を中心に陳列。

▼雛飾りと京の人形 二月十一日(日)～三月十八日(日) 新館2階14号、中央
室 切畑健担当

▼新収品展 七月四日(水)～七月二十九日(日) 新館2階12～14号、中央室

*昭和五十三年度の文化庁管理換、寄贈、購入による新しい収蔵品を展示。

六道の美術 八月一日(水)～八月二十六日(日) 新館2階中央室 中野玄
三・伊東史朗担当

*大阪府地蔵院地藏菩薩立像の修理完成を機に六道美術の名品を展示。

密教図像 八月一日(水)～九月二日(日) 新館2階8～10号室 中野玄三担
当

*京都の密教寺院の所蔵する密教図像の名品を中心に図像の歴史的展開を
展望。

名物裂 九月五日(水)～九月二十四日(月) 新館2階14号、中央室 切畑健
担当

*「名物裂図録」の完成を機に、収録作品を中心に展示。

高津コレクションの甲冑と刀剣 九月二十七日(木)～十二月二日(日) 新館
2階15、16号室 稲田和彦担当

*高津家所蔵の平安から江戸時代に至る甲冑と刀剣の代表作を展示。

日本の初期須恵器 十月二日(火)～十一月十一日(日) 新館1号室 八賀晋
担当

*中部から九州地域の五世紀の須恵器を最近の発掘資料から展示。

不動明王画像の名品 十月三十一日(水)～十二月二日(日) 新館2階8号、
中央室 中野玄三担当

*初公開の法楽寺の不動や青不動を始めとする名品を一同に陳列し、併せ

て不動明王像の關係パネルを展示し、歴史的な変遷を展望した。

▼鉄斎 十二月四日(火)～十二月二十五日(火) 本館3～5号室 金沢弘担当

天平の写経 十二月四日(火)～十二月二十五日(火) 本館1、2号室

木下政雄担当

*白鳳から奈良時代における勅旨経と知識経の代表的写経を展示。

●出版刊行

○『京都国立博物館所蔵 名物裂(下)』 京都国立博物館 昭和五十四年三月 切畑前田家伝来 健担当

*昭和四十・四十一年度に購入した加賀前田家伝来の名物裂類を組織図を挿んで詳細に紹介した。B4 収載図版二一九図(うち原色図版八四図) / 頒価二万五千円

○『日本の黎明』 京都国立博物館 昭和五十四年三月 八賀晋担当

*昭和五十二年秋開催の特別展覧会「日本の黎明」の図録。八賀晋・松沢亜生・渡辺誠・田辺昭三・小野山節の各論文を掲載。B4 収載図版二八九図(うち原色図版四五図) 参考図版一八一図 / 頒価二万八千円

○研究発表『変化観音の成立と展開』 仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書第6冊 昭和五十四年三月 A4 本文図版五十五頁(単色図版四)

*昭和五十二年十一月十三日におこなわれた研究シンポジウムの要約。末尾に「密部観音経典請来書写年表」、「文献・銘記にみえる観音関係年表(一)」「(二)」、「諸観音尊像別便覧年表」を附す。

○『特別展覧会パリ■ギメ博物館東洋美術の秘宝』目録 京都国立博物館 昭和五十四年十月。B5 収載図版九五図(うち原色図版一〇図) / 頒価千円

○『密教図像』特別陳列目録 社団法人清風会 昭和五十四年七月 中野玄三担当

*作品解説のほか、概説「密教図像の展開」を掲載。A4 収載図版九六図(うち原色図版一〇図) / 頒価八百円

●シンポジウム

研究発表と座談会「不動明王の諸相について」「最澄と空海の書」

主催 仏教美術研究上野記念財団助成研究会(代表者 林屋辰三郎)

期日 十一月十二日(月)

会場 京都国立博物館講堂

参加者 約六十名

研究発表

『不動明王画像の諸相』 中野玄三

『不動明王彫像に関する二、三の問題』 井上正

『最澄と空海の書風について』 木下政雄

『中国と日本の紙——九世紀を中心に——』 大沢忍

座談会(司会 清水善三)

●国内における調査研究

京都府下社寺調査 四月～十二月 担当 井上正・伊東史朗

*京都府下の社寺が所蔵する未指定文化財の調査と資料台帳の作成をおこなった。

史跡美濃国分寺跡発掘調査 七月～八月 担当 八賀晋

*国分寺鐘楼跡を検出

東福寺塔頭永明院の発掘調査 担当 八賀晋・難波田徹

*永明院開祖円鑑師の墓所を調査した。

●海外における調査研究及び出張

林屋辰三郎・井上正 十二月一日～十二日(行先 パリ)

*京都国立博物館特別展覧会「パリ■ギメ博物館東洋美術の秘宝」の展示品選定及び協約書の協定。

金井杜男 十一月二日～十一月十四日

*中国・新疆ウイグル自治区・トルファンの仏教遺跡をはじめとする西域の史跡を調査した。成果は講座で紹介した。